





今回も、タイムリーな話題で、なおかつこれからの私たちの仕事の仕方、活動の仕方を良い方向に導いてくれる、「力がつく」学習会でした。企画、準備してくださった斎藤先生、網走支部のみなさん、本当にありがとうございました。日本の教育が変わるかもしれないビッグチャンスととらえて、今日学んだことを基礎に、いい授業をしていきたいと思いました。

(若狭 美喜子)

アクティブラーニングを「どの子ども生き生きさせる手段」として位置づけたいと思います。授業の形態にとらわれては苦手な子は何もできません。その子にとっての良さを把握し、どうアクティブに結びつけられるかが教師の努めといえるでしょう。あくまでも、子ども1人1人を伸ばすこと、学級づくりの手段として、こだわりながら実践に臨もうと思います。

(勝田 統人)

「アクティブラーニング」について学び、私のとらえ方としては、“学びをとぎらせない活動”だと思いました。「アクティブラーニング」によって、学校での学習が子供達への明るい未来につながっていくことを期待したいです。

(佐野 純子)

斎藤先生のお話を聞いて、アクティブラーニング＝『思考が活性化した学び』ということが、はっきり分かって良かったです。また、みなさんと話し合う中で、アクティブラーニングを行うためには、学級作りが大切だということも分かったので、今後も学級作りについてしっかり考えていきたいと思っています。

(小林 杏樹)

「アクティブラーニング」とは何か、まさに、アクティブに学習が進められ、「アクティブラーニング」についてみんなで押さえることができたのではないかと思います。一人一人に「アクティブラーニング」を生かしていくことが、これから必要になってくると思いますが、そのためにも子ども達をより深く見つめていく必要があると強く感じました。

(和田 朗)

今回、学習会を担当させていただくに当たり目指したのは・・・。「参加者がアクティブに思考しながらアクティブラーニングについて学ぶ」展開でした。目標が達成できたかどうかは分かりませんが、「子どもが主体的に思考する」ことの重要性や「学級づくり」の大切さについて、改めて学ぶことができました。皆さん、ありがとうございました。

(斎藤 正倫)

今回の合宿研の学習を通して、網走教組が考えてきた「子ども達につけたい本当の学力」の考え方に確信をもつことができました。「アクティブラーニング」という学習形態が子ども達の学力を高めていくのではなく、いかに子ども達の思考を能動的に活性化させるかということが大切なのです。そういう意味でも、能動的な学びをいかにつくっていくのかという網走教組の考え方を、これからも実践的に高めていく必要があります。

私たちが教育の本質をここにしっかりおいて、明日からまたがんばっていきましょう。

(大坪 哲也)

「アクティブラーニング」の形態だけマネをしても何も良くならないこと、「子どもたちが主体的に学べる」ということを大事にしながら授業をつくっていく・・・今までやってきたことに通じるということを確認できました。新しい言葉で上から押しつけられるものではなく、今まで私たちが大事にしてきた方向で、やっていけばよいと思うとすっきり。たくさん人の話を聞いて、なんとなく考えていたことが「やっぱりそうだった」と頭の中が整理されて、とても勇気づけられる学習会でした。ありがとうございます。

(丸尾 恵)

深い内容で、同時に交流もできた良い時間となりました。問いに基づく具体的活動をすすめる中で教師は指導のねらいを獲得させていく訳ですね。同調圧力(ピュアプレッシャー)は国連から勧告されています。『つくり笑い』をする『思春期』の子らにどうやってアプローチするのも考えさせられました。

(稲葉 則次)

とても良い学習でした。アクティブラーニングで能動的な学びが広がり、毎日の授業で子どもたちの思考が活性化すればいいなあと思いました。そのためには我々教師の日々の努力、教材に対する深まりであったり、学級づくりを上手に行うことであったりするので、責任が重いー良い意味でそうとらえました。

まだ自分の中で分からないのは「何をアクティブにするか」という所です。アクティブにして表現力が高まり、クリエイティブになって国際社会に通用する人材が到達点ではないと思います。アメリカ人やヨーロッパ人に匹敵する討論上手、自己主張がしっかりできる日本人が良いのか？謙虚で奥ゆかしい日本人の特性は捨てるはならない美点だとも思います。地球人として皆が均等な資質をそなえ、似通った人種になるのはかえって教育の後退であり敗北ではないかと考えます。自己表現が上手であることも素晴らしいしそれを培うのがアクティブラーニングなら、それが型だけになって漏れてしまうことがないか気を配ることも、またとても大切だと思いました。

(上田 健一郎)

アクティブラーニングの学習会の感想

斎藤先生、ありがとうございました。司会も進め方も資料も分かりやすくとてもよかったです。たしかに「アクティブラーニング」は今までの教育現場の中で行ってきたことではあると思うのですが、こうやって文科省からおろされてくる、ということで、逆に「利用する？」というか、受け身でない授業、子ども達を育てていくためには、必要な方法だと思っています。基本は「学級づくり」。この考えはみなさんで共有されたと思いますが、その上に立って一人一人が輝いていける学級づくり、学校づくりを私達は目指していきたいですね。

(戸松 恵子)

# 参加者の感想